

# 障害者と対話 共生探る

松山大会と「縁日」出展へ公開講座  
東京芸大



道後アートと連動した公開講座で、イベントに出展する屋台の内容などについて話し合う参加者＝11日午後、松山市文京町

「道後アート」（実行委員主催）の交流型プロジェクトと連動して、東京芸大と松山大による公開講座「当事者との対話―ひみつジャナイ縁日をつくろう」が11日、松山市文京町の松山大榎又キャンパスで始まった。3月中旬まで全7回の日程。初回は障害者らとの話し合いなどを通して共生のあり方を探った。

東京芸大はアートと福祉をテーマにした人材育成を推進。講座参加者は3月14、15日に道後地区の上人坂エ

リアで開かれるアートイベント「ひみつジャナイ縁日」に出展する屋台を制作し、ワークショップの内容を検討する。

11日は学生をはじめ、高校生から年配者まで県内を中心に約50人が参加。松山を中心に活動する障害者3人がゲスト講師となり、障害児教育や自身の障害などについて丁寧に説明した。

続いて、参加者は3人を囲んで「日常生活で困っていることや工夫していることは？」などと熱心に質問。

グループごとに段ボールを使った屋台の内容について話し合った。

済美高2年村上明音さん（17）は「障害のある人は違和感なく生活しており、逆に自分たちが違和感をもってしていると気付いた。目が見えなくても楽しめるような屋台にしたい」と笑顔を見せた。

講師の一人で、難病「マリネスコ・シェーグレン症候群」により車いすで生活

する松山大人文学部1年大鋸龍之助さん（19）は父親が画家で、自身も同じ道を志す。「知られていない難病はたくさんある。『ひみつジャナイ』のでんどんさんらけ出したい」と意気込みを語っていた。（和田亮）